平成２５年度 愛知県がんセンター公開講座（第７回）のご案内

「がんに対する低侵襲手術 ～手術による傷を小さくすることで体の負担を減らす努力～」

平成２５年１１月２４日(日) 開催

< 講師からのメッセージ >

「呼吸器外科学の進歩　～肺がん・縦隔腫瘍に対する胸腔鏡手術～」

今や、肺がんは日本人の死因の第１位を占める難治の疾患です。がん病巣へのピンポイント攻撃が可能な抗がん剤（分子標的薬）や放射線治療（陽子線や重粒子線）の発達に伴い肺がん治療の戦略は変貌してきています。しかし、肺がんを根治する（完全に治す）ための手段としての手術の役割が減じている訳ではありません。がんの根治を目指すという手術の普遍的役割に加え、より安全でより体にやさしい（低侵襲）手術の提供が求められています。肺がんや縦隔腫瘍に対する低侵襲手術（胸腔鏡手術）の適応と実際、その成績について紹介いたします。

中央病院呼吸器外科部　部長　坂尾　幸則

「きずの小さい、からだに優しい、胃がん・消化器がん腹腔鏡手術」

日本人に最も一般的な胃がん・大腸がんなどお腹の臓器のがんは、検診で早期に発見すれば、手術など切除だけで完全に治るがんです。とはいえ、手術には「お腹を大きく切る」とか「きずが痛む」などマイナスのイメージがあります。しかし最近は、できるだけからだに優しい手術＝低侵襲手術が行われるようになってきました。小さい穴からお腹の中に手術器具を入れて行う腹腔鏡手術によって、痛みが少なく、傷あとも目立たない手術ができ、普通の生活にも早く戻ることができるようになってきました。本講演では、腹腔鏡手術の実際についてご紹介いたします。

中央病院消化器外科部　医長　三澤　一成

「泌尿器科領域における、低侵襲手術としての腹腔鏡手術、ミニマム創手術の実際」

泌尿器科領域の手術において、低侵襲手術が標準化しています。当院泌尿器科部においては、低侵襲手術である腹腔鏡下手術とミニマム創手術の両方を導入しています。当院では、両手術を行っていることにより、一つの手技にこだわらず、患者さんの状況に合わせた、低侵襲手術を提供できると考えています。最終的には、両手術の相違、利点欠点を対比して説明し、手術方法を患者さんと一緒に決めていきたいと考えています。今回の講演会で、皆様が泌尿器科領域の低侵襲化の現状を知っていただける機会となれば幸いです。

中央病院泌尿器科部　医長　曽我　倫久人